

研究人材キャリア情報活用支援事業

令和5年度予算額(案):129百万円 (前年度予算額:224百万円)



背景•課題

- 人口減少が進み、<u>生産年齢人口が一層限られてくる</u>中、<u>博士人材という高度人材の活用</u>が社会全体で無駄なく効率的に図られるよう、 博士人材がその能力と適性に応じて活躍できる環境とのマッチングの促進を図っていくことが重要。
- 研究者の流動性の向上と公募の透明性を図るため、研究人材データベース(JREC-IN Portal)を構築・運用し、博士人材の求職者と 求人機関とのマッチングを支援。

【第6期科学技術・イノベーション基本計画(令和3年3月26日閣議決定) 抜粋】

〇希望する全ての優秀な博士人材が、アカデミア、産業界、行政等の様々な分野において正規の職を得て、リーダとして活躍する展望が描ける 環境を整備する。

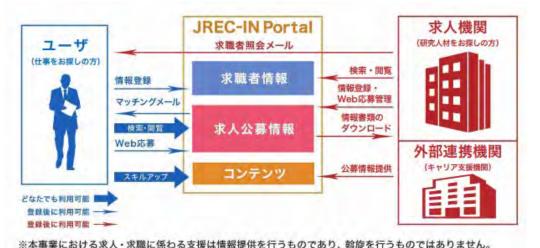
事業概要

【事業の目的・目標】

○ 研究人材データベース(JREC-IN Portal)を構築・運用することにより、公募の透明性を図るとともに、博士人材の求職者と求人機関とのマッチングを促進し、研究者の流動性の向上と博士人材の社会全体での無駄なく効率的な活用を図る。

【事業概要・イメージ】

○ 国公私立大学のほぼ全ての公募情報がJREC-IN Portalに掲載されており、公募の透明性と研究者の流動性の向上を支える プラットフォームとして機能。(登録利用者 142,289人、求人情報 23,943件、年間アクセス件数 20,403千件(令和3年度実績))



【令和5年度のポイント】

- 〇 新システムの運用を開始
 - ・個人情報を安全に管理するためセキュリティを強化
 - ・電子応募機能を含むシステム全体の使い易さを向上
- 新システム運用開始に合わせ、博士後期課程学生を含む 若手研究人材や民間企業等に対するマーケティング・広 報を強化し、利用拡大を図る

【資金の流れ】

運営費交付金





JST

ジョブ型研究インターンシップの概要

1. 目的

- ◆ 大学院教育の一環として行われる長期間かつ有給の研究インターンシップの普及により、これらのことを文化として社会に定着させる。 もって、Society 5.0に相応しい雇用の在り方と高等教育が提供する学びのマッチングを図る。
 - ・優秀な大学院学生が、安心して博士課程への進学を選択できる環境にあること
 - ・今後拡大が見込まれるジョブ型採用を見据え、<u>産業界と大学が連携して大学院教育</u>を行い、国際競争に耐え得る研究力に裏打ちされた実践力を養成すること
 - ・学業に支障をきたすことなく、学生の成長にとって有意義なインターンシップが行われ、学修成果を活用した採用活動が行われること

2.ジョブ型研究インターンシップの概要

- ◆ 今後拡大が見込まれる「ジョブ型採用」を見据え、大学院教育の一環として行われる研究インターンシップ
- ◆ 産学の共通認識を確立するため、先行的・試行的取組から実施
- ◆ ジョブ型研究インターンシップ (先行的・試行的取組) の要件
 - 研究遂行の基礎的な素養・能力を持つた大学院学生が対象(当面の間、博士課程学生であって、学生の専攻分野は自然科学系を対象)
 - 長期間(2ヶ月以上)かつ有給の研究インターンシップ
 - 正規の教育課程の単位科目として実施
 - 企業は研究インターンシップのジョブディスクリプション(業務内容、必要とされる知識・能力等)を提示
 - インターンシップ終了後、学生に対し面談評価を行い、評価書・評価証明書を発行
 - インターンシップの成果は、企業が適切に評価し、採用選考活動に反映することが可能

3.ジョブ型研究インターンシップの推進体制とスケジュール

- ◆ ジョブ型研究インターンシップを推進する45企業、45大学によって構成される推進協議会のもとで推進(R3.8.10現在)
- ◆ 2021年度後期はトライアルで実施すべく、現在、企業と学生とのマッチングを実施中(R3.10から)
- ◆ 2022年度は、トライアルの結果を踏まえ実施予定(新たな参画大学・企業の調整中)

提供: 文部科学省

事例1 行政官と政策研究者の二足の草鞋



たかやま

まさゆき



大学院で打ち込んだ研究で培った、仮定を適切に設定しつつ議論を構築し、PDCAサイクルを検証する力は、科学技術政策を推進する上でも大きな力となります!

・学生時代の専攻: 光物性物理学実験

⇒博士(理学)

・入省: H31(R1) 年次

総合職技術系(院卒)

【数理科学·物理·地球】

・著書:「アカデミアを離れてみたら」(共著)

離れてみたら

- ・理工系博士課程経験者の方々の 様々なキャリアパスが描かれています。
- ・学生時代についてもよく分かる内容 となっています。

これまでのキャリアパス

科学技術·学術政策局政策課

科学技術・イノベーションを俯瞰的に推進

- •科学技術基本法改正
- ・科学技術関連予算全体に関する業務 等

研究振興局参事官(情報担当)付

基盤的なAI技術の研究 開発の取組

- ・AI研究開発PJの予算要求や 研究開発戦略策定
- ・統計学のエキスパート人材 育成事業の立ち上げ 等

現職

総合教育政策局 調査企画課 学力調査室 企画係長

全国学力・学習状況調査の CBT化に向けて

- ・全国学力・学習状況調査の 実施に向けた事業者調整や 教育委員会への広報
- ・CBT化に向けた短期的な具体 仕様から長期的な戦略までの 、策定

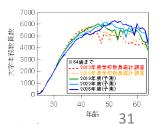


科学技術・学術政策研究所 第一調査研究グループ

行政官としてだけでなく、政策研究者として活動開始

- ・大学教員の年齢分布の 将来予測シミュレーション
- AI等技術による政策研究への 試行的アプローチ 等





提供:文部科学省

研究開発、人材育成に自ら従事 事例 2



ついざき 對崎

真楠



信念は「外向き・前向き・現場主義」。博士として、 専門性を活かしながら視野を広く持ち、多くの人を 巻き込み未来志向で取り組んでいます。

- ・学生時代の専攻: 微生物学 ⇒ 博士(農学)
- ·入省:H24年次

総合職技術系理工IV

(院卒)【牛物・化学・薬学】

- ·その他:
- 〇学牛時代に論文3報投稿。
- 〇在外研究時(入省後)に論考1報投稿。

その他インタビュー、解説記事執筆、シンポジウ

ム登壇など。



フォーラム:研究データベースから見た日本の研究者の未来とは? (右端: 對崎) https://cdf.lne.st/2017/07/07/816/

これまでの主なキャリアパス

研究開発局 宇宙開発利用課

JAXAを所管し、宇宙を総括

- ・ロケットの打ち上げ担当(JAXAと協力、2年間で6回実施)
- ・予算要求や課の総括業務を通じ、行政官としての仕事の基礎固め

研究開発局 環境エネルギー課

地球温暖化対策の推進

・省・蓄・創エネルギーや気候変動予測に係る基礎研究の推進

研究開発局 開発企画課

ビッグサイエンスの総合調整・予算配分調整

・宇宙、海洋、原子力、地震・防災、環境エネルギー等

科学技術·学術政策局 研究開発基盤課

量子研究推進室

「量子技術イノベーション戦略」の策定

・先端大型研究施設の推進(NanoTerasuの建設推進)等

宇宙関係在外研究員派遣(米国ジョージ・ワシントン大学)

米国における宇宙政策に関する研究

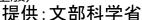
・米国の宇宙政策や国際協力の動向について情報収集・発信

現職

科学技術·学術政策局 人材政策課

博士学生・若手研究者の支援

・高度専門人材の基盤づくり (科学技術・イノベーション人材政策全般)





国際シンポジウムでの挨拶

米国にて

32

政策への示唆 <u>(12月22日木曜会合「民間研</u>究開発とイノベーションシステム」より抜粋)

研究開発・イノベーションシ ステムの課題

平均な傾向

- ◆ 企業研究開発費は トップクラスであ るが、諸外国に比 べのびが少ない。
- ◆ 特許関連指標は トップクラス
- ◆ 付加価値の上昇に 結びついていない。

等

高パフォーマンス企業 の個別事例

- ◆ 基礎から商業化研 究までの明確な研 究開発戦略
- ◆ オープンイノベー ションに対応する 吸収能力

等

メタレベルでの政策課題

我が国の研究開発・イノベーションシステムの変革の必要性

企業

大学 | 政府

スタートアップの育成を通じた産業構造の転換

産業セクターと公的 セクター(大学等) の関係性の構築

研究開発・イノベー ションを担う人材の 育成・活用

海外投資と国内投資 のバランス

企業の投資ポート フォリオへの影響 (税制・企業会計な ど)

 $\bigcirc\bigcirc$

 \triangle

玉

33